

# ぶらり杉並の 小劇場の旅

篠崎光正

杉並演劇祭実行委員会 委員長

阿佐ヶ谷駅からぶらり散歩するのは楽しい。人情味のある店や味にうるさい店主が多いが杉並に住むとそれが自慢になる。荻窪、高円寺、西荻界隈もいつもぎわっていてぶらり散歩には実に気分がいい。しかしこの杉並にはまだまだ他にはない魅力がある。それが路地や商店街の横丁に若者を集める小劇場！それも23区内で上位となる数の多さである。夜な夜な若者が劇場の入り口にたむろするのを目になると、事情を知らない大人たちは眉をひそめる。だが、ヤンキーたちのたむろでは断じてない！芝居好きな若者たちだ。友情や愛情を描く演劇を創る若者たちに期待できるのは、心のあたたかさに他ならない。昔は子供のころから学校や近隣の劇場で演劇を観ることができたが、今では大学生100人に「観劇経験の有無」を尋ねても0か1人である。自分の目の前で俳優たちの生の熱い心のやりとりを観たことがない人がほとんどというこの現実。何とかしなければとボランティアの実行委員たちは東奔西走して、この杉並演劇祭実行委員会を支えている。さらに演劇祭の主旨に賛同して協力していただいている提携劇場や舞台成果を競う参加団体の皆さんに心より感謝！感謝！

副賞  
10  
万円

杉並演劇大賞は、演劇界に将来貢献すると思われる次世代の才能を発掘するため、杉並演劇祭実行委員会審査委員会が、厳正なる審査を行い選抜する、演劇を対象とする賞。



杉並  
SUGINAMI  
演劇  
STAGE  
大賞  
AWARDS

## 最優秀作品に賞！

参加する団体・個人を対象  
最優秀作品に賞を授与

杉並演劇祭期間中（3月1日～31日）に上演される参加団体の中から、最優秀作品一つを審査選抜し贈呈。（副賞10万円）

審査員

石澤秀二・篠崎光正・瓜生正美・湯澤紀保・北條純・篠本賢一  
執行佐智子・保科耕一・高都幸男・安延洋美・棄原秀一

第13回杉並演劇大賞受賞作『HandY(ハンディ)』三ツ星キッチン

前回の杉並演劇大賞作品  
『HandY(ハンディ)』三ツ星キッチン  
(劇場・阿佐ヶ谷アートスペース・プロット)



『HandY(ハンディ)』三ツ星キッチン——男と女の二人芝居、それにピアニスト一人。ストーリーは耳が聞こえず、言葉も不自由な男と、居酒屋に務める女との出会いから始まり、その二人がこともあろうに漫才を志すというもの。ストーリーは奇抜だが舞台は二人の俳優の絶妙なやりとりと慈愛に満ちた深い心の表現に笑いと涙と温かい大きな拍手に包まれた。心に残るいい舞台であった。二人の俳優が漫才をしているかのように絶妙な掛け合いをし、その芝居そのものが漫才を見ているようであった。しかも耳が聞こえないという男の設定をドラマティックに表現することなく、男女の心理を丁寧に描き密度の濃い舞台空間を作り上げた。特筆すべきはピアニストの存在である。ある時はミュージカルのオーケストラ、またある時は出演している物言わぬ俳優、そして観客の代表としてこのドラマを愛情に満ち溢れた目で見つめ、しかもそれを歌で表す歌手の存在。このピアニストの演出が舞台に人間的広がりを生み出した。そして最後に付け加えたいのが男の役を演じた俳優に他の役をいくつも演じさ

せた演出効果。耳が聞こえないことばも不自由なこの男が出演している間の沈黙の時間の後を、緩急つけた台詞が飛び交うエネルギーッシュな舞台に変身させた。一方女の役には別の役を演じさせることが無く一つの役を最後まで演じさせた。この作りが実際に良い物語の軸を女へと導いていた。女の男への愛情を純愛へと昇華させた良い結果を招いた。

大賞の他に優秀賞が三つ。

優秀賞「DEBRIS」人形劇団望ノ社(阿佐ヶ谷アートスペース・プロット)

優秀賞「其ノ十二『Alex』ここかしこの風(シアターシャイン)

優秀賞「第二の野望」セミナーズ2013オムニバス公演(遊空間がざびい)

チケット  
販売

上演期日・開演時刻・入場料金など演目に関わるお問い合わせは、各上演団体に直接お問い合わせください。

杉並演劇祭実行委員会事務局 〒168-0072杉並区高井戸東1-20-7電劇内

主催=杉並演劇祭実行委員会

協力=明石スタジオ・遊空間がざびい・シアターシャイン・阿佐谷アートスペースプロット  
荻窪小劇場・ワーサルシアター・アトリエファンファーレ高円寺・アトリエカノン  
ART THEATERかもめ座・阿佐ヶ谷アルシェ

なみじやない、杉並！

中央線あるあるPROJECT